



## 随想

懐かしい遊びとその道具(一)

# 思い起せば昔の遊び

古橋 昭子

(青山学院大学名誉教授・  
理学博士・湘南日独協会会員)



“段とび、のスタイル”

“花いちもんめ” “いも虫  
ごろごろ、ひょうたんぼっ  
くりこ” など大勢で仲良く  
わいわいと、休み時間の運  
動場はにぎやかだった。

それから簡単な遊具を使  
う遊びも盛んに行われてい  
た。“縄とび”も1人で2

3歩進むことができる。”  
重まわし、交差とび、大勢  
で順に入っては出る遊び。

“セチョキ出せ”など、特に  
ゴムひもで“段とび”とい  
うのは持ち手が2人で段が  
次第に高くなり、腰の高さ  
位まではゴムにふれてはい  
ない。最近はどこに行っても  
車、自転車の往来が多くて、  
のんきに道で遊べないかも  
知れない。

“鬼ごっこ”も何の道具  
も要らない遊びである。男  
の子は帽子をまっすぐか  
ぶって戦艦、横にかぶって  
機雷と云い帽子を取り合う  
と“じゃつちよ立ち”と  
遊びをしていたが、戦後は  
いって手を地面についても  
良くなる。

いつも最後までよくとべ

たのは、鈴子ちゃんと言  
うそう大きくもないお下げ  
髪の子であった。

遊びと一口に云ってもそ  
の範囲の広さは子どもから  
大人まで驚くほどで、赤  
ちゃん用の“ガラガラ”か  
たとえは“じゃんけん”を  
ら、将棋、囲碁、マージャ  
ン、パチンコ、カルタ、花  
札、オルガン、ピアノ等々  
。

勝った者は“バナナッ  
プル”と6歩。チョキで勝  
った者は“チョコレート”  
と6歩。い起せば“鬼ご  
っこ”か“通のゃんせ”

特に近年は電子機器の発  
達によって伝統的な遊びも

グウで勝つと“グリコ”